

永谷園グループ  
環境・社会報告書  
2013



味ひとすじ、おいしさでつながる

# Top Message

トップメッセージ

## 創意と工夫で社会に貢献することが使命です

私たち永谷園は、2013年5月1日の創立記念日をもって創立60周年を迎えました。

社長就任後、私はさまざまな取引先へご挨拶に伺いました。そこで強く感じたのは、創業以来、「味ひとすじ」の企業理念のもと、「創意と工夫で、おいしく便利な商品を生み出し、社会に貢献する」を使命に取り組んできたことに対する皆さまからの厚い信頼です。

これほどの励みはなく、60年の歴史の重みを私たちの一番の財産として、次の世代に着実に継承しなければと思います。同時に、企業を取り巻く環境が大きく変化する中、社会からの期待に応えるためには自ら変革に挑戦することが大切だと考えています。この必要性を説き、グループをひとつのベクトルに束ねていくのも社長としての重要な役割です。

## 安全で安心な商品を安定的にお届けいたします

企業は社会の変化に対応しながら、責任を持って成長・発展することが求められます。会社を代表する立場として、永谷園という企業に課せられた社会的責任の重さを実感しています。

どのように社会的責任を果たしていくのかには、さまざまな考え方があると思います。

食品企業である私たちが考える社会的責任は、安全で安心な商品を安定的にお届けすることだと思います。そのため永谷園グループでは、原料段階から安全を確認する独自の品質保証システム「NAFSAS(ナフサス)」を構築し、グループ全体で管理・運営を行っています。また、「お客様相談室」に寄せられるお客さまからのご質問・ご意見は、当社への信頼を高める貴重な情報として事業に反映させています。

## 「日本になくってはならない会社」を目指します

社長就任時から、私の思い描いている企業像はとても明快です。それは「日本になくってはならない会社」であり続けることです。この理想像の追求こそが私たちの存在価値であると考えています。

そのための取組みとして挙げられるのは、各グループ企業がそれぞれの持ち味を生かし、社会から必要とされる商品・サービスを、きちんとしたかたちでお客さまにお届けすることです。さらに、食生活の充実に貢献できる価値創造型の新商品を開発するという使命もありますし、環境に配慮した生産体制の推進や従業員にとって働きやすい職場づくり、事業所周辺でのコミュニティ活動もあります。

私たちが携わる食品事業は、幸せで豊かな社会づくりへ貢献する手応えを直に実感できる仕事です。このような幸せな環境で働いているのですから、ステークホルダーの皆さまから「永谷園グループが、あって良かった」と言われるような仕事に、今後も誇りを持って取り組んでいきたいと思っています。



株式会社 永谷園 代表取締役社長

永谷 泰次郎



# CONTENTS

- 1 トップメッセージ
- 2 目次／編集方針
- 3 特集

## マネジメント体制

- 4 CSR
- 5 コーポレート・ガバナンス
- 6 コンプライアンス

## 社会の中で

- 7 安全・安心への取組み、品質管理
- 8 お客さまとの関係
- 9 株主さまとの関係・情報コミュニケーション
- 10 従業員との関係
- 11 社会貢献

## 地球環境のために

- 12 環境基本方針／推進体制
- 13 環境マネジメント
- 14 2012年度取組み状況
- 15 環境負荷の分析
- 16 地球温暖化防止への取組み
- 18 水資源保護への取組み
- 19 廃棄物削減への取組み
- 20 容器包装への取組み
- 21 オフィスでの取組み
- 22 環境会計／編集後記
  
- 23 会社概要／業績の概要

## 編集方針

本報告書は、永谷園グループを支えてくださる皆さま（お客さま、お取引先、株主さまなどの方々およびグループ従業員）とのかわりを、より深くすることを目的として作成しました。

本報告書では、永谷園グループをよりご理解いただくために、永谷園グループが2012年度に取り組んだ環境保全活動内容や企業活動内容を広く紹介しています。

なお、本報告書の作成に際しては、環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」および「環境会計ガイドライン（2005年版）」を参考にしました。

### 報告対象期間

2012年4月～2013年3月

※一部、当該期間外における取組みが含まれています。

### 発行年月

2013年9月

### 次回発行予定

2014年9月

### 報告対象組織

本報告書は、永谷園グループ（株式会社永谷園および国内グループ会社8社）を報告対象としています。なお、株式会社永谷園の取組みは、「永谷園」または事業所名のみで報告しています。

### 環境パフォーマンス対象組織

（株）永谷園（茨城事業部・岡山事業部）、（株）サンフレックス永谷園（本社工場・泉工場・宮下工場・遠野工場・高坂製袋工場・大原工場・愛宕工場）、（株）オクトス、（株）ニシエイ（加工工場・海苔工場）、（株）花笠食品

※CO<sub>2</sub>排出量は、上記対象組織のほか、（株）永谷園全事業所、藤原製麺（株）（第1工場、第2工場、第4工場、第5工場、第6工場）が対象となっています。

※OA紙使用枚数は、上記対象組織のほか、（株）永谷園全事業所が対象となっています。

### 環境会計対象組織

（株）永谷園（本社・技術開発センター・茨城事業部・岡山事業部）、（株）サンフレックス永谷園（本社工場・泉工場・宮下工場・遠野工場・林ノ上工場・高坂製袋工場・大原工場・愛宕工場・総務部）、（株）オクトス、（株）ニシエイ（加工工場・海苔工場）、（株）花笠食品

特集

永谷園は創立60周年を迎えました

## 永谷園は、5月1日の創立記念日をもって 創立60周年を迎えました

1952年(昭和27年)に「お茶づけ海苔」が生まれ、そのおいしさと手軽さを世に広められればと、翌年「お茶づけ海苔」を製造販売する食品メーカー「永谷園本舗」ができました。町のお茶屋さんに置いていただくことからスタートし、当時のデパートやスーパーへと売り場が広がりました。また、徐々に取り扱う商品もふりかけ、みそ汁、すしの素、中華総菜と増え、1992年(平成4年)には社名も現在の「永谷園」になりました。



1958年(昭和33年)当時の社屋



発売当初の  
小袋のパッケージ

### これからもお客さまとともに

永谷園の歴史は「お茶づけ海苔」から始まりました。それ以降、多くのお客さまに育てていただき、いくつものロングセラー商品が生まれました。こうして築きあげられた永谷園ブランドは、私たちのかけがえのない最大の財産としていつまでも大切にしていまいます。

これからもお客さまの生活の中に溶け込み、ご利用いただく商品を創り出す使命を忘れることなく、永谷園らしい創意工夫を続けてまいります。

#### 【企業理念】

味ひとすじ

- 「味ひとすじ」とは、
1. 創意と工夫で商品・サービスを常に考え、創り出すこと
  2. お客様に実感、満足していただく「おいしさ」を提供し続けること
  3. 食を通じて幸せで豊かな社会づくりに貢献していくこと



# ステークホルダーの視点に立ったCSR活動に取り組めます。



## 永谷園グループのCSR

永谷園グループでは、日頃から大切にしている「正しく、正直に、そしてまじめに」という考え方を、従業員がもう一度、強く認識することが「CSR」の取組みの基本であると考えています。そして本業を通して社会や環境に対して一定の役割や責任を果たしていくことで、ステークホルダーを含む社会全体との信頼関係を築くことが重要だと考えています。

永谷園グループのCSR活動は、決して新しい取組みということではありません。長年取り組んできた「品質の安全・安

心」や「顧客満足」、基盤整備に力を注いできた「コンプライアンス」や「環境問題への対応」など、日頃から取り組んできたことです。これらの取組みテーマや、今後さらに注力すべきテーマを明確にするため、2006年に「CSRの定義」および「個別の取組みテーマ」を定めました。

今できることを着実に成果として積み重ねていきたいと考えています。



# 健全な企業として 発展するために。

**信 頼は  
社員一丸  
築くもの**

(株)永谷園  
[岡山事業部] 岡崎 恵子



## コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンス体制

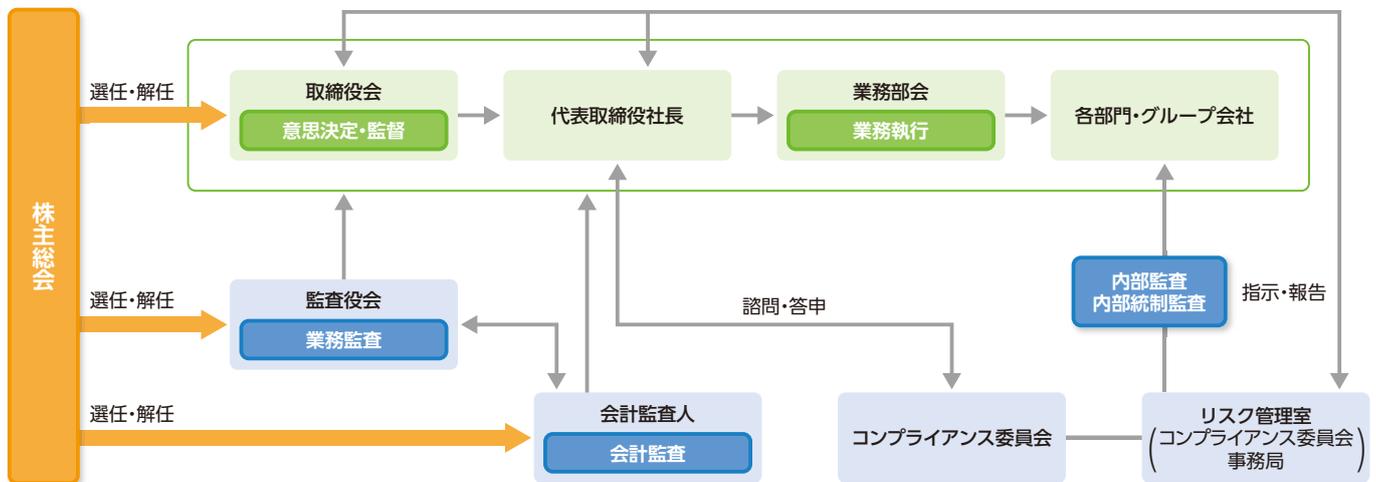
永谷園では、戦略策定・業務監督機能と、業務執行機能との分離を明確にするために、2002年6月から「執行役員制度」を導入しており、現行の経営体制(2013年6月27日現在)は取締役9名、執行役員5名(取締役兼務者を除く)、監査役4名(社外監査役2名を含む)となっています。なお、経営の健全性を高めるため、2010年6月開催の第57回定時株主総会において定款を変更し、取締役の任期を2年から1年に変更しました。また、執行役員は、取締役会で選任され、任期は1年となります。

取締役会は、月1回の定期開催に加え、必要に応じて随時迅速に開催し、法定事項のほか、特に重要な業務執行に関す

る事項について取締役会規程にもとづき決議しています。また、経営の円滑な意思決定機能を強化するため、各部門長から取締役に対して、業務の執行状況を報告するための業務部会を毎月開催し、さらに、随時各部門長が企画提案および情報提供を行うための会議を毎週開催しています。

経営のチェック機能については、永谷園では従来から「監査役制度」を採用しており、監査役会による経営監視に務めています。監査役は、取締役会その他重要な会議に出席するほか、永谷園の業務や財産状況の調査はもとより、グループ会社の調査も積極的に実施しています。さらに、会計監査人、内部監査部門との連携強化を図り、業務執行の適法性、妥当性に関する監査体制の充実に努めています。

### ●コーポレート・ガバナンス体制



## 内部統制体制の整備・運用

「会社法」および「金融商品取引法」にもとづく内部統制の整備・運用・評価に関しては、社長が任命する内部統制推進者のもと、リスク管理室や各部門長およびグループ会社の内部統制責任者との連携、さらには必要な各会社・部署に配置されたリスク管理者との協働により推進しています。2012年度も、グループ会社8社に対してチェックを行い、「全社的な内部統制」と「決算・財務報告プロセスに係る内部統制」の整備内容の充実を図りました。また、「業務プロセスに係る内部統制」と「IT(全般、業務処理)統制」の整備・運用チェックは、重要な事業拠点である永谷園に加え、一部(株)

サンフレックス永谷園および藤原製麺(株)も対象としています。それにより、内部統制体制の信頼性の向上を図っています。これらの結果、2011年度に引き続き、2012年度の評価も、「財務報告に大きな影響を与える重大な不備・欠陥はない」との判断に至っています。

2013年度も基本的には、2012年度同様の体制で臨みますが、信頼性をより高めつつ、効率的な整備・運用が可能な内部統制の在り方を追求します。なお、2009年度に永谷園グループに加わった藤原製麺(株)と(株)サニーフーズは内部統制体制のより一層の充実化を推進していきます。

# 正しく、正直に、 そしてまじめに。

**控**けるな  
貴方の行動  
未来絵図

〔株〕ニシエイ 菅 公三



## コンプライアンス

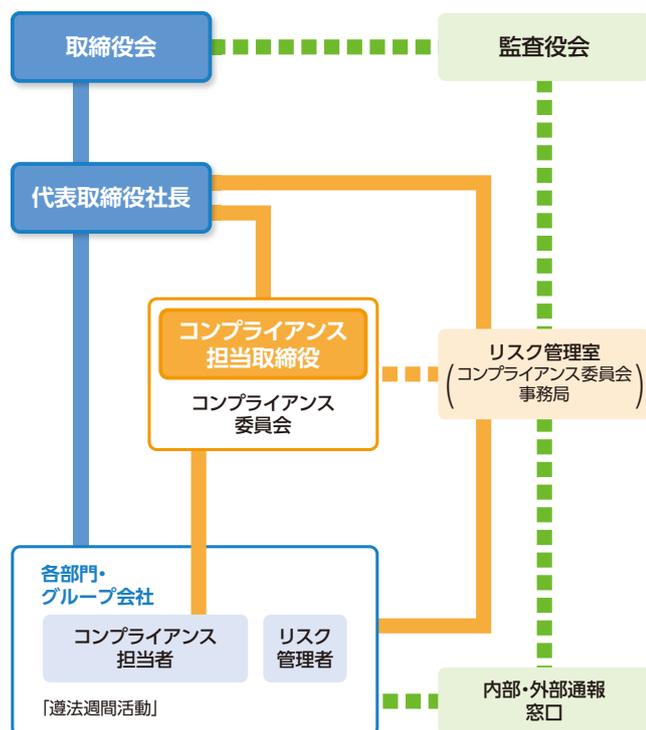
### コンプライアンス体制

永谷園グループのコンプライアンス経営を維持するための体制の中心は、グループ全体のコンプライアンス担当取締役(永谷園・専務取締役)が委員長を務める「コンプライアンス委員会」です。この委員会が基本的な枠組みを考え、実行させる母体となっています。具体的な活動は、委員会の事務局である「リスク管理室」と事務局から任命された「コンプライアンス担当者」が担っています。コンプライアンス担当者は各部署・会社ごとに任命されており、現在約50名が活動しています。

リスク管理室は、社長直轄組織として、広い意味でのコンプライアンスに関わる3つの業務を行っています。

① **コンプライアンス委員会の事務局**：永谷園グループのコンプライアンス体制の維持・強化を図るため、コンプライアンス担当者とともに各種のコンプライアンス活動を実施しています。このなかでももっとも重視しているのが「**遵法週間活動**」です。これは、全従業員に配付されている「倫理綱要」を年に1回は皆で読み合わせをして確認し合ひましょう、という趣旨で始めたものです。

### ●コンプライアンス体制



現在では毎年新たに配付される「(身近な)ミニ・ケーススタディ」も加わり、コンプライアンス担当者のもと、各部署・各会社10名以下の人数単位でコンプライアンスに関する話し合いが行われています。このような場を設けることで、従業員のコンプライアンス意識の向上に大変役立っています。また、内部通報への対応もリスク管理室の業務であり、通報窓口の一つにもなっています。

② **内部監査**：近年各種の企業不祥事が後を絶たず、「内部監査」の重要性が極めて高くなってきています。現在は年に5～6件の監査とほぼ同数のフォロー監査(監査後、一定期間を経た時点で指摘事項の改善状況をチェックする監査)を実施しています。経営改善から小さなコンプライアンス違反の是正まで、いろいろな観点から経営をサポートする活動を行っています。

③ **内部統制業務**：「会社法」「金融商品取引法」における内部統制の整備・運用・評価業務を行っています。リスク管理室長が「内部統制推進者」を兼ねており、必要な各会社・部署に置かれている「リスク管理者」と協働して、内部統制の整備・運用に関して管理をしています。

### VOICE

#### 安全・安心な会社のために

リスク管理室の内部監査チームでは、当社全グループを対象とした内部監査(いわゆる業務監査とJ-SOX上の内部統制監査)を行っています。業務にあたっては、社内外の制度変化などを収集しつつ、監査特有の視点も向上させなくてはなりません。まだまだ監査先で学ぶことも多く、日々勉強の毎日です。最近では監査役・会計監査人との連携を強化して新たな視点を取り入れたり、公認内部監査人・公認不正検査士などの専門資格を取得することで監査能力のレベルアップも図っています。今後も、グループの全従業員が強固な基盤の上で安心して業務に専念できるよう、また、これからも安全・安心な会社だと認識して頂けるよう、グループ各社・各部門と協力して業務にあたりながら見識を深めていきたいと考えています。



(株)永谷園 リスク管理室

小見 昌由

# 安心してお召しあがりいただける 安全な商品づくりに努めています。

**安全は  
守るものではなく  
つくるもの**

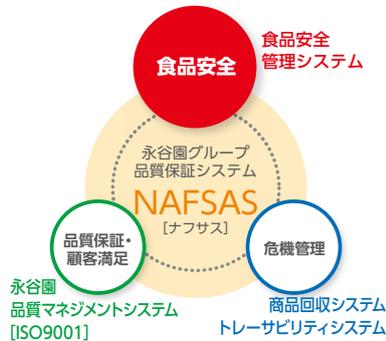
(株)永谷園  
【品質保証部】 榎原ひとみ



## 「食品安全」への取組み

消費者の食品安全に対する関心が高まる中、永谷園では2009年に始動した独自の品質保証システム「NAFSAS (以下、ナフサス)」\*<sup>1</sup>に基づき、より高い品質で安全な商品づくりを目指しています。その継続的なレベルアップとして、2012年度は新たな規格FSSC22000\*<sup>2</sup>やAIBフードセーフティ指導・監査システム\*<sup>3</sup>を参考に、一般的衛生管理やフードディフェンス\*<sup>4</sup>の管理を強化し、ナフサス3本柱のうちの一つ「食品

### ●NAFSASの概念



安全」をより強固なものにしました。  
安全性の向上には終わりがありません。永谷園はグループ企業も含めて、今後も新たな取組みを続けていきます。

### ※1 NAFSAS(ナフサス)

永谷園味ひとすじ食品安全保証システム(Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System)の頭文字をとったもの。

### ※2 FSSC22000

ISO22000と食品製造に関する一般的衛生管理の基準(ISO/TS22002-1)を組み合わせた食品安全システムの規格で、EU食品・飲料産業連合(CIAA)の支援の元、オランダの食品安全認証財団(FFSC)によって開発されました(ISO22000:工場を中心として運用するHACCPの手法に、管理体制の維持や継続的な改善を行うISO9001の手法を加えた、会社組織全体で食品の安全性を確保していくシステムについての国際規格)。

### ※3 AIBフードセーフティ指導・監査システム

工場において食品安全のための取組みが適切になされているかを監査する食品安全管理システムで、米国製パン研究所(AIB)が定めている食品安全統合基準が元となっています。

### ※4 フードディフェンス

食品への意図的な毒物などの混入や汚染等に対する安全管理。工場への人の入退出管理や、工場内で使用する洗剤や薬品などの施錠管理、在庫管理を徹底しています。



人の出入りがある場所に監視カメラを設置し、不審者の侵入をモニタリング

## 技術開発センター

2012年11月、永谷園生産業務センター(東京都大田区)の新棟「南館」が完成し、名称も新たに「技術開発センター」へと変わり、業務が始まりました。「南館」には品質管理部が入り、理化学検査や微生物検査、商品の外観や包装資材の試験、味や香りを評価する官能検査といった様々な分析

手法を駆使して原材料や商品などの検査を実施し、安全性を確認しています。

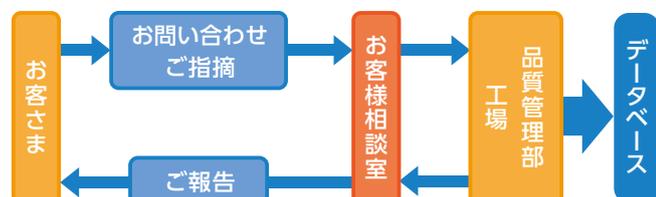


技術開発センター

## お客さまとのつながり

お客さまのご指摘については、お客様相談室と品質管理部および関係工場が連携した調査体制を構築し、調査の結果をお客さまに報告させていただいています。さらに今後の商品の改良や工場での品質管理につなげていくため、発生した原因の調査結果、その原因をもとにした再発防止策など、ご指摘内容も含めてデータベース化して、リスク評価をしています。

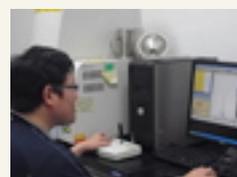
### ●お客さまからのご指摘に対する対応の流れ



## VOICE

### ご指摘に対する調査

お客さまの食に対する安全安心の意識が高まる中、お客さまからのご指摘には様々なものがあり、それがどのような状況で発生したものか、どのような内容なのかを確認し、可能な限り正確に判定することを心がけています。品質管理部管理システム室では、成分等を分析する必



要があるものに関しては様々な分析機器を利用して、科学的に判定しています。

(株)永谷園 品質管理部  
佐々木 芳浩

# お客さまに満足していただける会社を目指します。

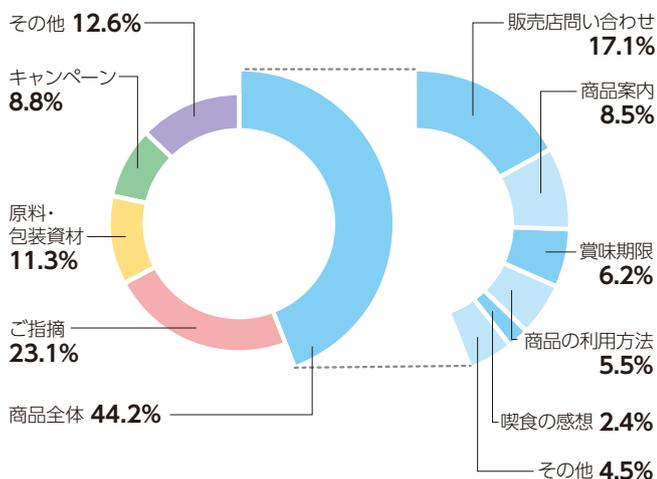


## お客さまとの関係

お客さまからいただく年間約16,000件(2012年度)の貴重なお問い合わせやご意見。永谷園は、そのようなお客さまからの申し出を、商品開発や改善に役立てたいと常に考えています。

お客様相談室ではお客さまとのコミュニケーションの窓口として、お客さまからの申し出に対して迅速かつ正確にお応えする体制を整えています。お客さまの申し出は社内のデータベースに蓄積し、日々「お客様の声」として社内に情報

### ●お申し出内容(2012年度)



- お客さまからご提供いただいた個人情報は、個人情報に関する法令等を遵守し、管理・保護しています。
- 「お客様の声」にお客さまの個人情報は記載されません。

を発信しています。

また、データを集計・分析して定期的に「品質保証連絡会」を開催。開発部門や生産部門などでも、より良い商品づくりに反映できるような仕組みを構築しています。

これからも永谷園はお客さまに満足していただける商品が提供できるよう、一つひとつの「お客様の声」を大切にしています。

## VOICE

### お客さまとの架け橋として

お客さまからいただくお申し出内容は非常に貴重なものです。お客さまからの貴重なお声を商品などに反映するため、お客さまと会社の架け橋として、関連部門にいるりと提案を投げかけたりしています。お客さまと会社の架け橋を担う私たちは、お客さまのお声を正確にかつ迅速に関連部門に運ぶしっかりとした橋でなくてはなりません。そのため、お客さまのお声を誠実に伺うために、



日々対応スキルとまごころの向上に努め、お客さまと会社それぞれが良い関係で、お互いが幸せになれることを目指しています。

(株)永谷園 品質保証部  
三谷 直人

## 改善事例

### パッケージサイズの変更

「彩りごはん」シリーズでは、従来品よりパッケージの幅を小さくし、廃棄量を削減しました。



### 今まで以上の安心を

パッケージの角で、レジ袋が破れてしまう、袋の中の他の食品を傷つけてしまうという申し出が多く寄せられていました。そこで、「エー・ラベルふりかけ」シリーズなどでは、角に丸みを付けました。



### 使いやすさをより分かりやすく

「お魚マジック」シリーズでは、「ファストフィッシュ※ロゴ」をパッケージに追加し、手軽に魚を食べられる商品であることを分かりやすく表現しました。



お魚マジック 切り身魚でタルタルフィレオ

#### ※ファストフィッシュ

水産庁主導による「手軽・気軽においしく、水産物を食べることに及びそれを可能にする商品や食べ方のこと」で、「わたしたちのファストフィッシュ委員会」において審査・選定された商品だけにロゴマークを付けることができます。

# 幅広いステークホルダーとの コミュニケーションを大切に考えます。

商品と  
笑顔を届ける  
永谷園

(株)永谷園  
[岡山事業部] 久本 久美子



## 株主さまとの関係

永谷園グループは、グループの企業倫理に関する基本方針である「企業行動指針」において、「ステークホルダーの立場を尊重し、長期的な信頼関係を築き、企業の発展につなげていく」と規定しています。なかでも株主さまに対しては、さらなる信頼関係を築くために、事業活動にかかわる情報を適切かつタイムリーに提供することを心がけています。また、永谷園および永谷園商品に対する息の長いファンであってほしいという願いのもと、2002年度から株主優待制度を導入しており、今後さらに充実を図っていきます。

### 株主優待

2013年3月31日現在、永谷園株式1単元(1,000株)以上ご所有の株主さまに、3,000円相当の永谷園商品詰め合わせを6月上旬に贈呈しています。



株主優待の商品詰め合わせ例(内容は毎回異なります)

### 事業のご報告

定時株主総会終了後(毎年6月)と第2四半期決算発表後(毎年12月)に株主さま宛に事業活動の状況を記載した「事業のご報告」をお送りしています。



事業のご報告

## 情報コミュニケーション

### 永谷園スマートフォンサイト、開設

2012年10月、「永谷園スマートフォンサイト」を開設しました。スマートフォンが広く普及したことを受けて、スマートフォンの画面に合わせたボタンサイズやレイアウトを心がけ、より快適で使いやすいサイトを実現しました。「商品情報」「商品ブランドサイト(一部)」「アレンジレシピ」「Webキャンペーン情報」「テレビCM情報」といったコンテンツを、よりお手軽にご覧いただけるようになりました。ぜひご活用ください。



永谷園スマートフォンサイト  
トップ画面

### VOICE

#### お客さまとのコミュニケーションを深めるために

永谷園ホームページでは、商品情報やCM情報といった情報発信だけでなく、Webキャンペーンの実施やお客さま参加型のコンテンツ展開を行っています。今後はお客さまとより密なコミュニケーションを取れるよう、Web会員コンテンツの充実、投稿レシピの拡充に取り組んでいきたいと思っております。

様々なキャンペーンや面白い企画を実施できるよう頑張りますので、ぜひ、永谷園ホームページにお越しください。



(株)永谷園 広報部  
堀内 広子

# 健康で働きやすい 職場環境をつくります。



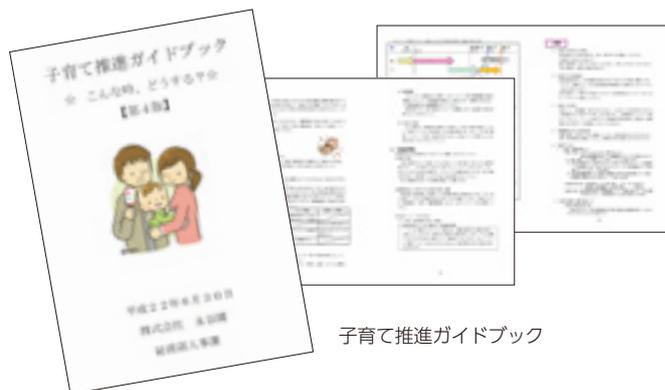
## 働きやすい職場づくり

従業員がゆとりある生活を実現できるように、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいます。2007年度に発行した「子育て推進ガイドブック」により、育児休業や短時間勤務制度等の周知を図りました。現在では、制度を利用する従業員が多くいます。

また、永谷園では所定外労働時間の削減および年次有給休暇取得の促進のため、「半日単位の年次有給休暇制度」、「ノー残業デー」および「家族団らん休暇※」も導入し、年々社内に浸透してきています。

### ※ 家族団らん休暇

従業員およびその家族(1親等まで)の誕生日または子(中学生以下)の入卒園(入学卒業式)出席等を対象事由として、年2日を限度として取得できる休暇。



子育て推進ガイドブック

## あいさつ推進週間

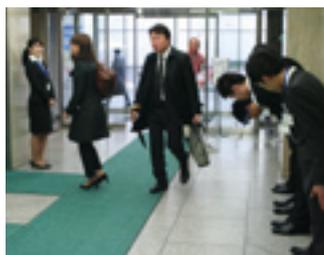
永谷園本社では明るく前向きな職場環境づくりを促進するために、「あいさつ推進週間」を設けました。推進週間中、メンバーに選出された社員は朝8時30分から9時まで本社1階玄関ホールに整列し、出勤してきた社員や納品業者の方々に元気な声で「おはようございます！」と出迎えました。

明るく前向きなあいさつをするために、4つのポイントを心がけながら1週間実施しました。

引き続き社内コミュニケーションの活性化を目指し、定期的に「あいさつ推進週間」を続けていきます。

### 明るく前向きなあいさつをするための4つのポイント

- ① 職場の雰囲気明るくするような笑顔のあいさつ
- ② 相手のあいさつを待つのではなく、自分から声をかける
- ③ 社外・社内、面識の有無を問わず、いつでも、どこでも
- ④ 自然に習慣化できるように普段の生活から



玄関ホールでのあいさつの様子

## VOICE

### あいさつ運動を行って

普段何気なくしていたあいさつですが、ホール前に整列し「おはようございます」と声を出すと、恥ずかしい気持ちから徐々に清々しい気持ちに変化しました。大きな声を出す事によって身体に力が湧いてくる感じがして、その日一日を元気に過ごす事ができました。

これからも自分から積極的に笑顔であいさつをし、明るく朗らかにコミュニケーションがとれるような職場環境づくりに貢献していきたいと思っています。



(株)永谷園 総務部  
西山 さとみ

# 本業を通じて 社会に貢献します。

**リサイクル**  
小さな努力で  
社会貢献  
【(株)花笠食品】 星了斗



## 地域社会と次世代の発展のために

### 職場体験、職場訪問の実施

永谷園岡山事業部や(株)花笠食品をはじめとする各事業所では、周辺地域からの要請を受け、インターンシップ事業の一環として職場体験を実施しています。また、永谷園本社では、全国各地からの職場訪問要請に対応するなど、各地で永谷園グループの理解促進を図っています。これからも、今後を担う世代の育成、社会貢献のために積極的に取り組んでまいります。



職場体験【(株)花笠食品】



工場訪問【(株)ニシエイ】

### 周辺地域の美化清掃活動

永谷園グループの各事業所では、エコチームを中心に周辺地域の清掃活動・美化活動に取り組んでいます。定期的実施することにより、地域の方や社員同士の交流の場にもなっています。今後も、永谷園グループでは従業員一人ひとりが意識して環境美化に努めてまいります。



清掃活動【(株)オクトス】



清掃活動【(株)サニーフーズ船橋工場】

### VOICE

#### 高校生インターンシップを実施して

(株)花笠食品では、地域に貢献できる職業人の育成を目的として高校生のインターンシップを受け入れています。昨年度は、女子生徒2名が3日間の日程で参加し、仕事をする上でのルールやマナーを学んだ後、生産工程での作業実習も行いました。初めは緊張した様子でしたが、最終日の反省会では笑顔も見られ、大変有意義な実習になったようでした。



【(株)花笠食品】  
大橋 直樹

### 食物アレルギー配慮商品の啓発活動

A-FREE委員会\*では、食物アレルギー配慮商品に対する認知や理解を深めていただくため、さまざまなイベントに参加しています。その一つとして、「第59回日本栄養改善学会学術総会」や「第49回日本小児アレルギー学会」に出展し、食物アレルギー配慮商品の展示やサンプリングを行いました。

またこの度、キッズデザイン協議会(特定非営利活動法人、内閣府認証NPO)主催による「第6回キッズデザイン賞」の〈子ども視点の安全・安心デザイン賞 一般部門〉において、弊社「エー・ラベル」シリーズが、子どもが接触する可能性があるものの中で安全・安心に配慮されている商品として高く評価され、「キッズデザイン賞 審査委員長特別賞」を受賞いたしました。これからも、食物アレルギーをお持ちの方にも安心してお召しあがりいただける商品づくりに取り組んでまいります。

### チャリティ古本市の開催

永谷園本社では、当社が参加している「チャリティ古本市実行委員会」による「～本でつながるみなとの絆～チャリティ古本市」を開催しました。収益金はすべてみなと障がい者福祉事業団に寄付し、港区の障がい者自立支援に活用されます。



古本市の様子



出展の様子



表彰式

※ A-FREE委員会

食物アレルギーに配慮した商品にかかわる問題を検討する社内委員会。

# 「環境基本方針」のもと、 環境保全活動に取り組みます。



## 環境基本方針

「環境基本方針」は、企業理念である「味ひとすじ」の考えのもとづいて、環境に関する取組みに対しての永谷園グループの姿勢・決意を宣言したものであり、「環境理念」と「行動指針」で構成されています。

「環境理念」は永谷園グループが環境にどう取り組んでい

くかという会社の姿勢を宣言し、「行動指針」は「環境理念」を実現していくための具体的内容を定めたものです。「行動指針」は「永谷園グループ倫理綱要」の「企業行動指針」の一つに制定され、永谷園グループの企業倫理に関する基本方針として社内に周知されています。

## 永谷園グループ 環境基本方針

### 環境理念

永谷園グループは、「味ひとすじ」の企業理念のもと、お客さまに満足していただける商品・サービスを提供するとともに、社会の一員として地球環境保全の大切さを理解し、環境に配慮した企業活動に取り組み、幸せで豊かな社会づくりに貢献します。

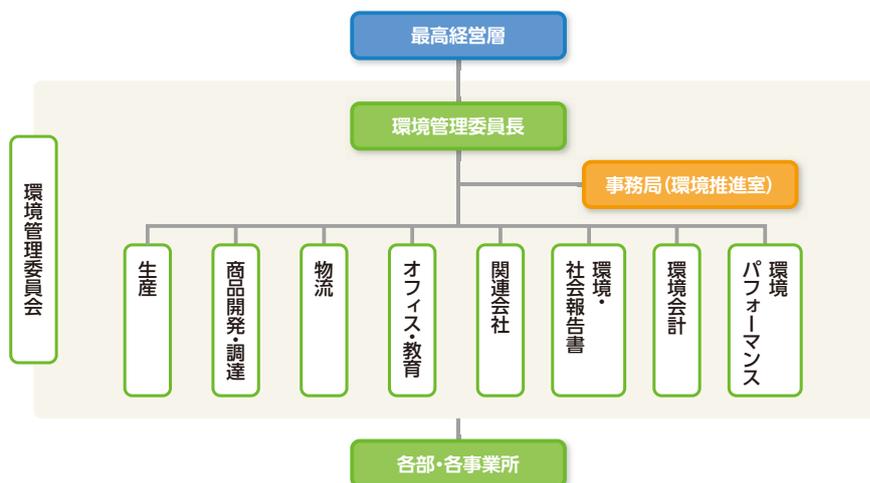
### 行動指針

- 1 永谷園グループは環境に関する法令などの遵守はもとより、環境保全を推進していくための体制を構築し、地球環境への負荷軽減に継続的に取り組みます。
- 2 環境保全に配慮した開発・生産に取り組み、「環境に負荷の少ない商品・サービス」を社会に提供します。
- 3 廃棄物の削減、リサイクルの推進および省資源・省エネルギーに努め、目標を掲げ「環境問題へ真剣に取り組む事業所」を目指します。
- 4 社員一人ひとりが前向きに環境問題を考え、「環境問題へ真剣に取り組む社員」としての誇りを持ちます。

## 環境保全活動推進体制

永谷園グループでは、環境保全活動を推進する体制として、環境管理委員会を設置しています。環境管理委員会は、環境管理委員長をはじめ、生産拠点のメンバー6名、事務系部門のメンバー17名、事務局3名の計26名で構成され、環境経営の維持・向上を効果的に進めています。また、環境法の遵法についても、関連する部門のメンバーを中心に的確に対応しています。

### ●環境保全活動推進体制



# 継続的な改善により、 環境保全活動を推進します。

人間の  
エゴが地球の  
ECOの敵

(株)永谷園  
[品質保証部] 綾井 宣男



## 環境マネジメントシステムの維持・向上

永谷園グループの生産拠点(6拠点)では、環境保全活動を継続的に実施していくために、ISO14001に準拠した独自の環境マネジメントシステムを運用し、維持・向上を目指しています。

このシステムは、「永谷園グループ環境マネジメントマニュアル」を基本としています。業務の負荷を軽減し、効率

化を図った独自のシステムで、実質的な活動を重視しながら本来のPDCAを回していくものです。

また、独自のシステムという利点を活かし、本業に即した活動を効率的・継続的に実施するため、各拠点において環境担当であるエコスタッフを中心にルールを作成し、環境保全に取り組んでいます。

## 内部環境監査

永谷園グループでは、環境マネジメントシステムの継続的改善のために、内部環境監査を重要な位置づけと考えています。

2013年1月には内部環境監査員研修を実施し、18名が受講、新たに13名の内部環境監査員が登録されました。この研修では、食品製造業における環境リスクや環境マネジメントシステムの概要、監査のやり方・進め方について、講義を通して学びました。

2013年3月には、環境マネジメントシステムを構築した拠点において、内部環境監査を実施しました。監査は工場間でのクロス監査の方法をとり、単に監査するだけではなく、監査する側・される側の両方が意見交換する場として考え、より良い改善につながる機会と考えています。なお、監査には1月に新たに登録された監査員も早速参加しました。



内部環境監査の様子

### VOICE

#### 内部環境監査員研修を受けて

内部環境監査員研修の受講後、すぐに監査員として監査を実施しました。監査内容は普段触れることが少ないこともあり不安がありましたが、運用経験のあるベテランのメンバーと一緒に内部監査をしたことで、大変勉強になりました。頭で考えるより運用内容が肌で感じられ、とても有効に思いました。今後の内部環境監査をより充実したものにするために、さらに経験を積んで内容をより深く理解することが必要だと思いました。

そのためには、日頃から環境マネジメントを意識して



活動できるよう努めていきたいと思えます。

(株)サンフレックス永谷園  
星野 高浩

## 環境教育

永谷園では新入社員教育を対象とした環境教育を実施し、「環境問題」「環境経営と持続可能な発展」「永谷園グループの環境への取組み」について講義しました。

また、環境マネジメントシステムを運用している拠点では、年1~2回、定期的に従業員向けの環境教育(講習会)を実施しています。従業員向けの環境教育の内容は、各拠点によって異なります。2012年度に実施した環境教育では、環境法や環境マネジメントシステムをテーマにしたものもありました。

内部環境監査員やエコスタッフ(環境担当者)には専門的な教育が必要となります。特に近年環境法の改正等が多数あるため、随時情報を共有し、資料などを通して教育を実施しています。



内部環境監査員教育

# 環境負荷軽減のために 持続的に活動します。

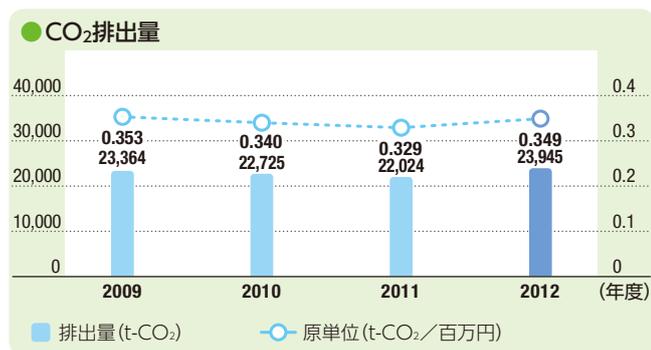


(株)永谷園  
[岡山事業部] 寺尾 和弘

## 2012年度結果

実施項目	具体的取組み	2012年度達成状況
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量削減	2009年度対比1.1%の削減
廃棄物削減	排出量削減	2009年度対比12.2%の増加
	再資源化率向上	80.4%に低下
	食品リサイクル率向上	66.1%に低下
省資源	水使用量削減	2009年度対比2.4%の増加
	OA紙使用枚数削減	2009年度対比2.4%の削減
グリーン購入	グリーン購入比率の向上	74.6%に向上

- CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量、水使用量、OA紙使用枚数の目標は、2009年度を基準年とした売上額（OA紙使用枚数は従業員1人）あたりの原単位の削減目標比率になっています。
- 食品廃棄物については、改正食品リサイクル法の対象となる再資源化等の実施率で目標を設定しています。

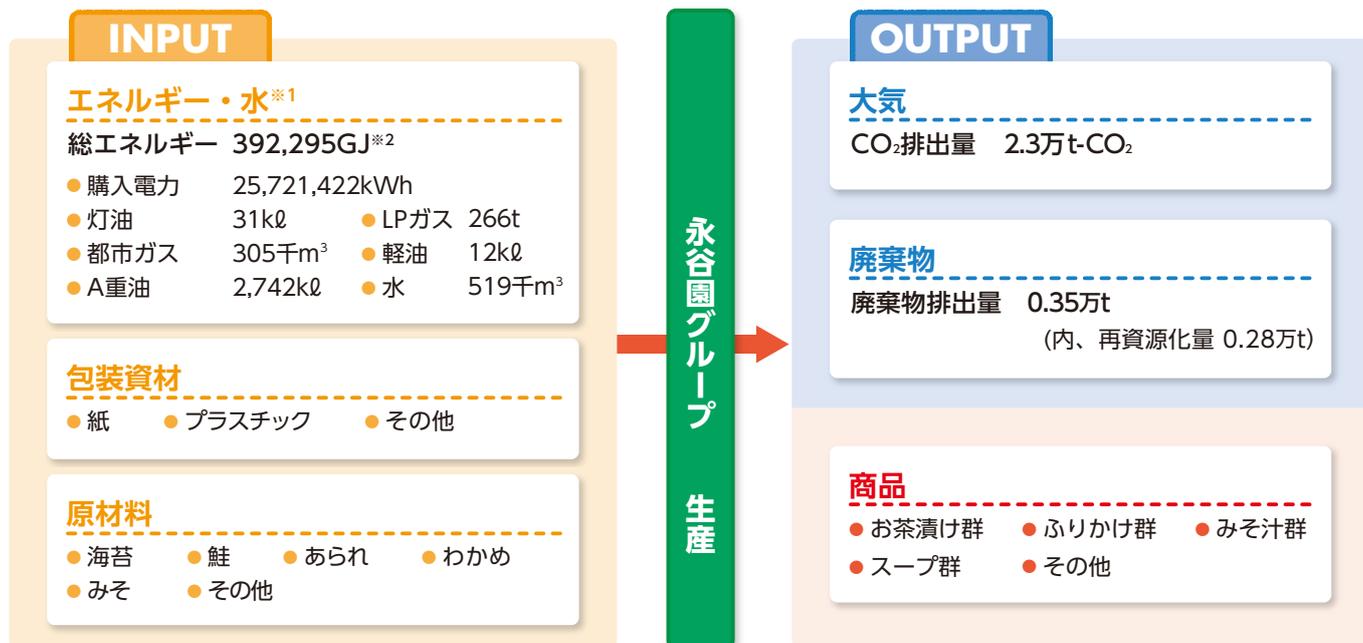


# 環境データを分析し、 可能な限り負荷を軽減します。



## 環境負荷の分析

永谷園グループでは、事業活動(生産活動)と環境へのかかわりについて、環境への負荷を「INPUT」から「OUTPUT」までの流れに沿って分析しています。



※1 換算係数

- ・電力:「電気事業者別のCO<sub>2</sub>排出係数(2011年度実績)」の実排出係数に準拠
- ・都市ガス:各都市で発表している熱換算係数に準拠
- ・その他の燃料等:「エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則」および「地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく命令」による係数に準拠

※2 GJ(ギガジュール)

ジュールは発熱量の単位 1GJ=1×10<sup>9</sup>J

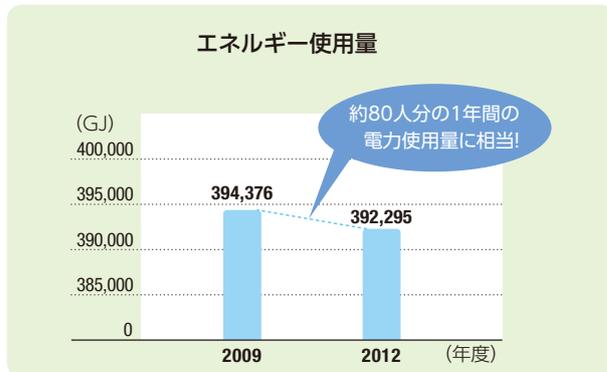
## TOPICS

### 永谷園グループのエネルギー使用量

永谷園グループが2012年度の1年間に使用した総エネルギーは、392,295GJとなりました。2009年度に使用した総エネルギーは394,376GJとなり、比較すると2,081GJ、約0.6%削減することができました。これは、日本人約80人分の1年間の電力使用量に相当します\*。

これからも、永谷園グループでは可能な限り環境への負荷を軽減するよう努めてまいります。

\*日本人一人あたりの電力使用量を、7,325kWh/人(2009年度)として算出。  
(参考:資源エネルギー庁「平成エネルギー白書2012」)



# 地球温暖化防止への取組みは、 CO<sub>2</sub>排出量の削減から始まります。

節電と  
一家の集う  
家族の和

〔株〕花笠食品 久松 裕子



## 地球温暖化防止への取組み

### 永谷園 茨城事業部

#### ● ノーマイカーデー

ノーマイカーデーを設定し、可能な従業員に限り、通常ではマイカーを利用している人が相乗りや徒歩、自転車などで通勤しました。ノーマイカーデーはガソリン使用量の削減による地球温暖化防止だけでなく、渋滞緩和にも貢献しています。

#### ● 排熱の利用

冬期にはコンプレッサー室の排熱を室内に取り込み、暖房として再利用しています。これにより、暖房使用時の電力使用量を削減することができました。

### VOICE

#### コンプレッサーの排熱利用について

茨城事業部では、冬場の暖房器具使用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減対策として、コンプレッサーの排熱を屋内に引き込み、冬場の暖房として再利用しています。

コンプレッサーは生産の動力に欠かせない圧縮空気をつくり、圧縮の際に高温の熱を発生し、冬場でも25度以上の暖かい風がダクトから外に排出されていました。そこで、ダクトを分岐して屋内に引き込み、風量調節弁を設置し、暖房の代わりとして使用しています。これにより、引き込みエリアの暖房器具使用がなくなりました。このような工夫を常に心がけ、今後も引き続き環境施策を行っていきます。



(株)永谷園 茨城事業部  
井坂 泰之

### 永谷園 岡山事業部

#### ● 熱風排出ダクトの設置

2012年5月から工場内の6ヵ所において、機械モーターの熱を作業場外へ逃がすため、排出用のダクトを設置しました。熱を逃がすことで室内温度の上昇を防止することが

できます。それにより、空調機器への負荷を低減することができ、エネルギー使用量の削減につながります。

また、冬期には反対に排熱を取り込み、暖房として再利用しています。



熱風排出ダクト

#### ● エアコン室外機の効率的稼働

室外機に日射が直接当たるような場合には、室外機の温度が上昇して空調機の冷却能力が低下し、電力使用量が増加する場合があります。そのため、エアコン室外機に直接日光が当たらないようにすだれをかけて、効率的な稼働ができる状態にしています。



すだれをかけた室外機

#### ● エコ活動の表彰

2013年1月、岡山事業部のエコ活動が、岡山市環境衛生連合協議会から会長表彰を受けました。これは、日頃から環境衛生の分野で改善運動を推進している個人や団体を対象に、その事業功労を称える表彰です。

岡山事業部のエコ活動が表彰されるのは、2年前に西大寺地区の環境衛生協議会からの表彰に続く二回目。今回の受賞を励みに、岡山事業部ではいっそうエコ活動に力を入れていきます。



表彰状とエコスタッフのメンバー

### (株)オクトス

#### ● 電気使用量の削減

共有部と第二工場作業場に空調機管理コントローラを導入することで、時間帯による台数制限・間引き運転が可能となりました。その結果、電力使用量を年間約180,000kWh削減することができました。

## 地球環境のために／地球温暖化防止への取組み

地球温暖化防止への取組みは、CO<sub>2</sub>排出量の削減から始まります。

### (株)ニシエイ

#### ●遮熱塗料による電力使用量の削減

遮熱塗料を第二工場の外壁へ塗装することにより、夏期の場合内温度を抑え、空調機の電力使用量を削減しました。遮熱塗料は以前から屋根に使用していましたが、その電力使用量削減の実績によって、今回第二工場の外壁にも塗装することとなりました。



遮熱塗料を塗った外壁

#### ●環境負荷の少ない燃料への変更

ボイラー\*燃料を重油からLPガスへ変更しました。LPガスは重油よりも使用時のCO<sub>2</sub>発生量が少ないため、CO<sub>2</sub>排出量の削減になりました。



LPガスボイラー

#### ※ ボイラー

水などの液体を加熱することで蒸気や温水をつくる機械。食品の製造には加熱・乾燥など多くの熱を必要とする工程があり、永谷園グループ各工場で使用しています。

#### ●LEDの導入

事務所と会議室の蛍光灯を、LEDタイプへ交換しました。LED蛍光灯の電力消費量は従来の約半分で、大幅な省エネ効果が期待できます。またLED蛍光灯は消費電力だけでなく、「虫が寄りにくい」「寿命が長い」といったメリットもあり、食品工場に適した商品です。今後も、随時交換していく予定です。



LED蛍光灯への交換

### (株)花笠食品

#### ●燃料節約の取組み

蒸気製造用ボイラーのスチームヘッダー(蒸気をいったん集め、各配管に分配する装置)に断熱カバー(エコジャケット)を装着しました。これにより、ヘッダー表面からの無駄な放熱を8割防止でき、燃料を節約します。外気温が下がる冬期は特に効果があります。



断熱カバーを装着したスチームヘッダー

## 物流部門での取組み

### CO<sub>2</sub>排出量削減への取組み

2012年度も引き続き、輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めました。

取組み内容としては、2011年度と同様、工場から近隣の倉庫へ納入していた経路を、売上比率に準じて東部(埼玉県)・中部(三重県)・西部(岡山県)のSP倉庫\*1に直送するように変更し、そのアイテム数を増やしました。結果、2012年度はSP倉庫までの輸送量を、2011年度対比で売上金額あたり5.7%削減することができました。

2013年度も引き続き、鉄道利用などのモーダルシフト\*2の拡大を検討し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組みます。

#### ※1 SP倉庫

各営業現地の売上分を保管するストックポイント。

#### ※2 モーダルシフト

貨物輸送の方法をトラックから環境負荷の低い鉄道・船舶などへ転換すること。

### 省エネルギー法(荷主責任)の対応

2012年度の売上配送も含んだ全体の輸送量は3,597万トンキロ\*3となり、2011年度対比で102.4%となりました。また、売上高が2011年度対比で102.1%となりましたが、売上高あたりのCO<sub>2</sub>排出量は100.3%となり、売上比率で対比すると1.8%の削減となりました。

省エネルギー法により、年間の輸送量が3,000万トンキロを超える荷主(事業者)は、省エネルギー計画の策定やエネルギー使用量等の定期報告が義務づけられています。永谷園は報告の対象となっており、計画書および定期報告書を提出しています。

#### ※3 トンキロ

何トン(重さ)のものを何キロ(距離)輸送したかという輸送量を表す単位。

# 限りある水資源をムダなく使用します。



取りもどせ

魚の帰る  
皆の川

(株)永谷園  
[岡山事業部] 高沢 菊江

## 水資源保護への取組み

### 永谷園 茨城事業部

#### ●洗淨時間の短縮

生産設備の洗淨時に、落ちにくい汚れは温水やジェット水流を使用しています。洗淨時間を短縮することで、水使用量削減につながっています。

### (株)ニシエイ

#### ●排水の再利用

これまででは商品の冷却工程で使用した水を排水として処理していましたが、その水をタンクに貯蔵して排水溝の洗淨水として利用しています。それにより洗淨に使用していた水を削減しています。



排水が貯蔵されたタンク

### (株)花笠食品

#### ●廃油の削減

圧縮エア<sup>※1</sup>製造用のコンプレッサー<sup>※2</sup>より発生する排水をろ過する、ドレン水<sup>※3</sup>処理装置を2012年12月に導入しました。油冷式のコンプレッサーから排出されるドレン水には微量の油分が混入しており、外部に直接放流することができません。そのため、従来は廃油として処理していたのですが、この装置の導入により、混入油分を水質汚濁防止法の基準値(5mg/L)以下に下げ、油分と水分をほぼ完全に分離することで廃油の発生量を削減できる見込みです。



ドレン水処理装置

#### ※1 圧縮エア

空気を押し縮めて圧力を高くしたものを。圧縮空気を大気中に放出したときに働く力を利用して、いろいろな仕事をさせることができます。

#### ※2 コンプレッサー

空気を圧縮する装置で、空気圧をつくり出すことができます。

#### ※3 ドレン水

空気が熱を失って凝縮した水のこと。コンプレッサーでは、圧縮され高温化した空気が配管内で自然冷却され、大気中から取り込んだ粉塵やコンプレッサー内の潤滑油や金属粉などが混ざった不純物・水分(ドレン)となります。

## TOPICS

### 永谷園グループの水質保全

永谷園グループでは、商品を安心して召しあがっていただける品質を維持するために、多くの水を使用しています。そのため、限りある水資源をムダなく活用するための節水活動はもちろん、工場からの排水による水質汚染を防ぐための取組みも行っています。

永谷園グループの多くの工場では、浄化槽(排水処理設備)を設置しています。浄化槽とは、汚れた水を浄化して、きれいな水にしてから放流するための施設です。浄化槽によって浄化された水は、排水基準を満たしているかを確認するため、定期的に水質検査を実施しています。

また、一部の工場では水質汚染を防止する脱窒素装置を導入しています。窒素はリンとともに水系を富栄養化<sup>※1</sup>させ、赤潮<sup>※2</sup>の原因となります。そのため、そのおそれのある湖沼および海域については、排水基準が定められています。脱窒素装置の導入により、排水に含まれる窒素量は基準値を大きく下回っています。

今後も、永谷園グループではできる限り環境負荷をかけず、常にきれいな水質を維持できるよう努めてまいります。

#### ※1 富栄養化

栄養となる物質が多くなりすぎてしまうこと。

#### ※2 赤潮

特定のプランクトンが大量に発生し、水の色が赤茶色になってしまうこと。赤潮が発生すると、水中の酸素が少なくなる、毒のあるプランクトンを魚が食べるなどして多くの魚が死んでしまうなど、漁業に大きな害を与えます。



浄化槽



脱窒素装置

# 分別を徹底し、廃棄物の削減とリサイクルを推進します。

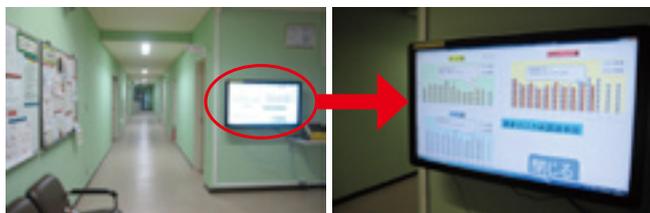


## 廃棄物削減への取組み

### 永谷園 岡山事業部

#### ●環境活動の見える化

工場内に2カ所ディスプレイを設置し、エコ活動の成果やイベントの写真等をスクリーンセーバーで放映しています。紙媒体の掲示物が以前より削減され、多くの人の目にとまるようになりました。



導入されたディスプレイ

### (株)サンフレックス永谷園

#### ●焼却炉の導入

2012年12月、泉工場に焼却炉を設置しました。廃棄物を焼却することにより、体積が大幅に減少します。そのため、廃棄物処分量の削減だけでなく、廃棄物の運搬の際に発生するCO<sub>2</sub>排出量の削減にもつながります。



焼却炉

### (株)オクトス

#### ●食品リサイクル率の向上

生みそ小袋(動植物性残さ)は今まで焼却処理していましたが、堆肥へのリサイクルに切り替えを行いました。その結果、リサイクル率が約81%から約98%以上に改善しました。

### (株)ニシエイ

#### ●分別機の導入

内容物が入った状態の小袋を解体する分別機を導入しました。包装資材は固形燃料に、内容物は肥料へとリサイクルされています。これまで動植物性残さの分別、仕分けを委託業者に依頼していましたが、自社で仕分け作業をすることにより、運搬の際に発生するCO<sub>2</sub>排出量の削減や分別コストの削減になりました。



### (株)花笠食品

#### ●廃棄物の適正処理

(株)花笠食品では廃棄物処分場の視察を積極的に行っています。昨年度は委託先9カ所すべてについて視察を実施し、適正な処理状況を確認しました。中には車で3時間以上かかる山奥の処分場もありますが、継続的に視察を行うことで、廃棄物処理に関する理解が深まり、排出抑制に対する意識も高まっています。また、視察の状況は定例会を利用して全従業員に報告されています。

# 環境配慮型の容器包装へ切り替えています。



## 容器包装への取組み

容器包装の見直しによって、「軽量化」「リサイクルしやすい資材への変更」を実現しました。

軽量化により商品の容器包装ゴミを減らすことができ、

また、リサイクルしやすい資材の採用でゴミ排出量の抑制とリサイクルされることによる環境負荷の軽減(省資源)につながっています。

### 材質見直しによる包装資材の軽量化

永谷園グループでは、包装資材の軽量化を継続的な課題として取り組んでいます。今後も、資材材質・サイズの見直しを行い、軽量化とゴミの削減に取り組んでいきます。

#### ● 資材薄物化による軽量化

2012年7月から生みそタイプみそ汁大袋で、資材の薄物化を実施しました。「生みそタイプみそ汁 あさげ」を含め8商品で資材の薄物化を行いました。これらの軽量化で、年間4トンの容器包装ゴミの削減が見込まれます。



生みそタイプみそ汁 あさげ



1杯でしじみ70個分のちから みそ汁

#### ● 資材材質変更による軽量化

2013年1月から徳用タイプみそ汁大袋で材質を変更し、軽量化を行いました。商品の安全性を確認した上で、使用する材質・厚みを検討し、「生タイプみそ汁あさげ 徳用10食入」を含む6商品で材質の見直しを行いました。これらの軽量化で、年間36トンの容器包装ゴミの削減が見込まれます。



生タイプみそ汁あさげ 徳用10食入



生タイプみそ汁ゆうげ 徳用10食入



みそ汁太郎12食

### リサイクルしやすい資材への変更

永谷園グループでは、以前より継続してリサイクルしやすい資材への変更を行っています。

2012年は、「松茸の味お吸いもの」「チャーハンの素」の化粧箱<sup>※1</sup>を、コートボール板紙<sup>※2</sup>からダンボール材質へ変更しました。リサイクルシステムの確立されているダンボールへ変更することで、リサイクルの推進を行っています。

化粧箱の材質を変更



変更前 (コートボール板紙)

#### ※1 化粧箱

商品を運搬する際、商品を効率よくダンボールに入れられるよう、区切りの役割をする箱。

#### ※2 コートボール板紙

表面を白く加工仕上げたボール紙。



400g/m<sup>2</sup>⇒約360g/m<sup>2</sup>に変更



変更後 (ダンボール)

## VOICE

### 継続的な環境負荷低減への取組み

商品の安全性を維持しながら軽量化を進めることは容易ではなく、再検討が必要になることもあります。しかし、



環境負荷低減は今や企業の義務・使命となっています。環境負荷低減のための継続的な取組みの必要性を強く感じています。

(株)永谷園 購買部 岡田 明宏

# オフィス部門でも、 環境負荷低減に取り組みます。



## オフィスでの取組み

永谷園グループオフィス部門では、2011年度に引き続き、環境への取組みとして「OA紙使用枚数の削減」、「電気使用

量の削減」、「水使用量の削減」、「廃棄物の削減・再資源化」、「グリーン購入比率の向上」を実施しました。

### ●具体的な取組み内容

1	OA紙使用枚数の削減	再生紙の利用、両面印刷、社内文書のペーパーレス化 など	[2011年度対比] <b>16.7%増加</b>
2	電気使用量の削減	使用後の部屋の消灯、空調の停止 など	[2011年度対比] <b>5.9%増加</b>
3	水使用量の削減	流しや洗い場での節水 など	[2011年度対比] <b>2.4%削減</b>
4	廃棄物の削減・再資源化	廃棄物分別による意識喚起・リサイクル促進 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>●廃棄物排出量 [2011年度対比] <b>0.1%削減</b></li> <li>●リサイクル率 [2011年度対比] <b>0.2ポイント向上 (60.3%)</b></li> </ul>
5	グリーン購入比率の向上	グリーン商品の積極的な購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事務用品購入金額 [2011年度対比] <b>0.9ポイント低下 (74.6%)</b></li> </ul>

## 新型複合機への入れ替えと台数削減による節電

永谷園本社および技術開発センターでは、電気使用量・紙使用枚数の削減のため、複合機の入替えと台数削減を行いました。省エネ型の新機種を導入と台数削減により2013年度は、2012年度対比で電力使用量を約84.4%削減できる見込みです。また、一部の部署ではICカードがないと印刷できないよう設定を変更したため、ミスプリントによるOA紙使用枚数の削減や、放置プリントなどの情報漏えいリスクの低減にもつながります。今後も引き続き、オフィス部門での節電対策を実施していきます。



ICカードによる認証

## ペットボトルのキャップ収集

永谷園および(株)ユニネットでは、各事業所でペットボトルキャップの収集活動を行っています。収集したキャップの売却益をNPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付し、発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を支援しています。2012年度は約3万個集まり、約

20名分のポリオワクチンを届けることができました。廃棄物排出量の削減になるだけでなく、社会貢献にもつながっています。



キャップ収集ボックス

## VOICE

### 継続的な環境への取組み

私の所属部では、滞留商品の効率的な販売方法を検討しているせいか、環境負荷低減に対する興味は比較的高い方だと感じます。数年前にキャップ収集ボックスを設置してから、毎年、徐々に量が増え続けています。特に夏場はあっという間に、ボックスが一杯になってしまいました。日頃の小さな積み重ねが、寄付などにつながるので、今後も環境への取組みの意識を持ち続けたいと思います。



(株)ユニネット  
石倉 友紀

# 環境経営の推進に伴うコストを管理しています。

**工**コ活動

見方を変えれば  
コスト削減

(株)永谷園  
[岡山事業部] 関口 孝行



## 環境会計

永谷園グループでは、環境会計の導入により、環境保全活動を推進するうえで必要な経費を管理しています。また、環境保全活動と経費のバランスを考え、環境経営を推進しています。

### ●環境保全コスト

(単位：千円)

環境保全コストの分類	主な取組み	2012年度		2011年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止コスト ●水質汚濁防止 ●大気汚染防止 等	12,217	59,415	—	65,242
	地球環境保全コスト ●CO <sub>2</sub> 削減 ●省エネルギー 等	6,753	26,482	5,375	28,889
	資源循環コスト ●廃棄物のリサイクル 等	23,036	185,319	7,006	165,345
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託 など	—	118,162	—	125,270
管理活動コスト	EMS構築・運用、環境教育 など	—	40,043	—	39,513
研究開発コスト	環境負荷低減型の包装資材の開発 など	—	—	—	—
社会活動コスト	自然保護基金への寄付 など	—	612	—	574
環境損傷対応コスト	該当なし	—	—	—	—
合計		42,007	430,035	12,381	424,836

### ●環境保全活動に伴う経済効果

(単位：千円)

環境保全活動に伴う経済効果		2012年度	2011年度
収益	廃棄物のリサイクル売却収益 (金属くず、古紙、廃プラスチック類、動植物性残さ)	3,753	3,603

※環境保全割合については、簡便な基準による按分集計方法にもとづいて算出しています。  
※千円未満は切り捨てで表示しています。

## TOPICS

### 環境会計とは

環境会計とは、環境活動(設備投資を含む)のためにどのくらいのコストをかけて、どのくらい効果があったのかを数値化したものです。

**投資額**：企業の償却資産への設備投資額のうち、環境保全を目的とした支出額を計上したものです。

**費用額**：企業の費用のうち、環境保全を目的とした発生額を計上したものです。

## 編集後記

「永谷園グループ環境・社会報告書」は、紙媒体とWeb媒体で内容を大きく変えています。

紙媒体は「ダイジェスト版」として位置づけ、永谷園グループの環境・社会貢献活動を8ページに凝縮。様式も見開きスタイルで見やすいよう工夫しています。

また、永谷園創立60周年にちなんだ特集など、永谷園グループに親しみを持っていただける内容になっています。

一方、Web版はダイジェスト版では紹介しきれなかった詳細情報を掲載しました。

永谷園グループ各社では、社会的責任を果たせるよう、これからもCSR活動を推進していきます。最新の活動は次回の報告書でご報告いたしますので、ぜひご覧ください。

(株)永谷園 広報部

斉藤 公一



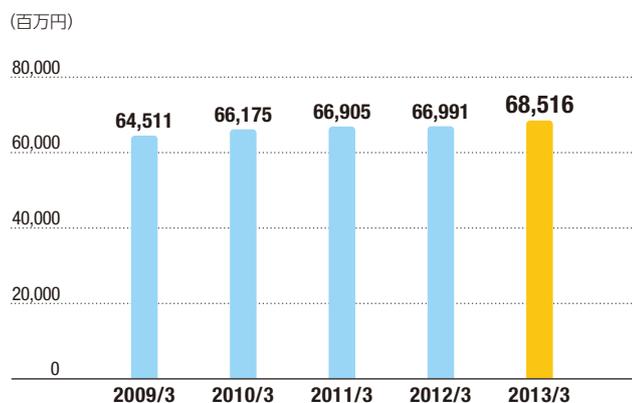
## 会社概要

商号	株式会社 永谷園
創立	昭和28年5月
本社所在地	東京都港区西新橋2丁目36番1号
資本金	35億292万円
売上高	[連結] 685億円 [単体] 638億円(2013年3月期)
従業員数	[連結] 1,457名 [単体] 657名(2013年3月末現在)
事業内容	お茶づけ、ふりかけ、即席みそ汁、その他飲料品の製造販売
TEL	03-3432-3105(代)
工場	茨城工場、岡山工場
支店	仙台支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店
営業所	札幌営業所、新潟営業所、宇都宮営業所、横浜営業所、静岡営業所、金沢営業所、近畿量販営業所、高松営業所、鹿児島営業所
駐在所	沖縄駐在所

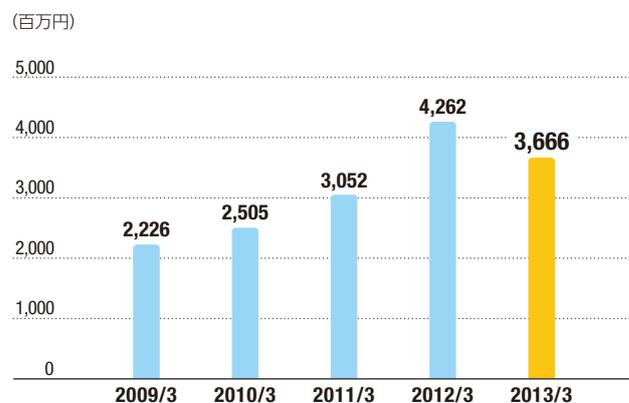
他の事業所	技術開発センター
関連会社	株式会社サンフレックス永谷園 株式会社オクトス、株式会社サニーフーズ 株式会社ニシエイ、株式会社花笠食品 藤原製麺株式会社、株式会社ふじの華 株式会社ユニネット (2013年3月末現在)
ホームページ	<a href="http://www.nagatanien.co.jp/">http://www.nagatanien.co.jp/</a>

## 業績の概要(連結)

### ●売上高の推移



### ●経常利益の推移



### ●従業員数の推移



### ●売上構成(2013年3月期)

